

市民の手による市域の自然調査の経過

若宮 崇 令*

市民ボランティアの協力を得て行なう5ヶ年計画の市域の自然調査は、初年度のボランティアの学習を主体にした予備調査に引き続き第2年次の昭和59年度は、丘陵部を中心にした本調査を実施し、その成果を移動特別展示会を開催し、広く市民に知らせると共に、「市民の手による川崎市域自然調査の報告 昭和59年度」を刊行し発表した。

1. 自然調査企画編集委員会

毎月1回、専門家10名よりなる自然調査企画編集委員会を開き、各調査分野の企画、進捗状況のチェック、指導を行なった。委員は次のとおり。

氏名	調査分野	所属
◎見上 敬三	地質	横浜国立大学教授(理博)
○鈴木 正	植物	
正岡 栄治	地質	都留文科大学講師
梶山三千男	植物	南河原小学校教諭
生出 智哉	こけ・きのこ	県立博物館主任学芸員
林 長閑	昆虫	法政二高教諭(農博)
沢木 基治	昆虫	有馬中学校教諭
小林 貞	水生昆虫	カリタス女子高教諭
峯岸 秀雄	動物	日本女子大付属高教諭
平林 豊央	野鳥	橘小学校教諭

2. 市民自然調査団

今年度の市民自然調査ボランティア登録者数は85名に達し、植物、昆虫、こけ・きのこ、地質、野鳥、動物、水生昆虫の7班に分かれ、調査活動を行なった。メンバーも増え、本調査に入ったので、組織の充実をはかるため「市民自然調査団要項」を定め、身分を明らかにする身分証明書を発行し、調査中は常に携帯するようになった。また、自然調査中であることを明示する腕章を作り、調査中の着用を義務付けた。さらに、調査活動中の

*青少年科学館

万一の事故に対し、登録ボランティア全員に保険をかけた。

3. ボランティア通信

各班の縦の連絡は、連絡網等を作り行なっているが、横の連携を取り合うため、各班の活動状況や、事務連絡事項を掲載したボランティア通信を2ヶ月に1回(№7～№12)を発行し、ボランティア及び各企画編集委員宛郵送した。

4. 自然調査教室の開催

新たな自然調査ボランティアの開発及び育成のため、1～2日にわたる基礎的な自然調査教室を夏季を中心に7講座開催した。

5. 移動特別展

調査第2年次の各班の成果を次の3ヶ所で特別展示した。

麻生区役所 3月7日(木)～3月13日(水)

幸市民館 3月15日(金)～3月19日(火)

青少年科学館 3月21日(木)～3月31日(日)

会期中の展示観覧者会計数は 名で、これら観覧者に特別展示解説書(A5版10ページ1色刷り)を配布した。特に麻生区役所で開催中、タヌキを見かけた等、貴重な情報が数多く寄せられた。

今後、この調査は第3年次は多摩川河川敷部、第4年次は沖積地部、第5年次は埋立地部へと調査地域を移し、5年間で川崎市域全域にわたる自然資料を収集する予定である。

調査を指導する企画編集委員の先生、ボランティアの都合等で、調査活動日が日曜日に集中しがちで、しばしば調査日の重複する班ができ、どちらの調査に参加しようかとボランティアが迷う場面も出たりしている。熱心なボランティアは毎日科学館へ来て資料やデータの整理をしたりして、確実に実力をつけてきている。今後、これらの人々を中心にハイレベルな調査活動を期待できるのではないかと思う。